

平成30年度 一人一人の確かな学力のために 5年

	学年の目標	二学期末の児童の様子	三学期末の児童の様子
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着を図るために、ミニテストを月3回程度実施します。学年末テストで90点を合格として、8割以上の児童が合格できることを目指します。 学習して身に付けた読み書きの力を生活に生かせるようにするとともに、日常的に書く力を高めるために、日記を書く活動を二学期から行います。そして、「主語・述語の関係が成り立っている文を書くこと」「様々な分野の文章を書くこと」「既習の漢字を使って書くこと」を重点的に指導していきます。 自分の考えをもち、伝えられる児童を目指します。そのために、自分の考えをノートに記録する時間を確保してから伝える時間をとったり、小グループでの話し合い活動を行ったりします。 	<ul style="list-style-type: none"> ミニテストを月3回程度、学年末50問テストを学期に2回ずつ行い、二学期末テストの合格者は1回目で34%、再テストで71%にとどまりました。 テーマを設定し、日記や行事の感想を書きました。主語・述語を整えて分かり易い文章を書けるよう、書いたら自分で読む習慣を身に付けさせます。 半数以上の児童は自分の考えをもち、伝えることができます。国語の「意見交かん会をしよう」では、相手の話を受け入れよう、聞くという姿勢が育ってきています。 	<ul style="list-style-type: none"> 月3回程度のミニテストの合格者は1回目で約64%にとどまりました。引き続き合格するまで繰り返し練習をするよう指導して、学期末には8割の児童が合格することを目指します。 日記や行事の感想に意欲的に取り組み、テーマに合った文章を書くことができる児童もいますが、自分の思いや考えを適切な言葉で表現することが難しい児童が少なくありません。読書や新聞を読むことなどを通じて、主語・述語の整った文章に触れる機会を増やす必要があります。 授業中、一人でじっくり考える「考えの形成の時間」をとることで、自分の意見や考えをもつことができました。自信をもって話し合い活動に参加できる児童が半数以上います。
基礎・基本	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルを活用して、既習事項の定着を図ります。必ず答え合わせを行って間違いを直す習慣を付けられるようにします。 東京ベシックドリルを活用して、4年生までの基礎的な学習内容の習得を目指します。9割の児童が80点以上獲得できることを目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題は児童が答え合わせをしていますが、途中式を書いていないため、どこで間違ったかを自覚できず、同じ間違いを繰り返している児童が少なくありません。途中式を書いて、順を追って考えられるよう引き続き指導します。 診断テストでは、4年生の学習内容ですが、正答率8割以上を達成した児童は4月で24%、7月で34%にとどまっています。理解が不十分な単元を自覚させ、補習タイムで引き続き東京ベシックドリルに取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中式を書く習慣がついた児童は約半数です。その中でも間違えたときになぜ間違えたか、記録することが出来る児童が少しずつ増えてきました。 二学期の診断テストの結果を参考に、補習タイムでは、理解が不十分な分野の学習を繰り返し取り組んでいます。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字タイピングがスムーズに行えるようにします。そのために総合的な学習の時間に、タイピングの練習にゲーム感覚で取り組み楽しく習得できるようにします。 国語の単元ごとに熟語を辞典を使って調べ、使い方や意味などの語彙力を伸ばすとともに、日頃から調べる習慣を身に付けさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間に、調べ学習で検索をする際など、ローマ字入力力はできています。 国語辞典を学校置きにして、分からない言葉等をその場ですぐ調べている児童は文章表現力が高まっています。ニュースや新聞の視聴、読書などに取り組むことで、さらに語彙が豊富になることが期待できます。 半数程度の児童は、外国語の授業で扱った英語(挿絵付き)を見て、発音できるようになってきました。書くことへの興味も高まっています。 	<ul style="list-style-type: none"> タイピングがスムーズに行える児童が増えました。また、画像の取り込みや、プレゼンテーションソフトを使った資料作りに挑戦する姿も見られました。 同音異義語など、辞書で調べた習慣が身に付いてきています。また自主学習で、四文字熟語などを調べて学習を深める児童も見られました。
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 【問題解決的な学習】 学習課題に対して、予想を立てて追求していく学習方法が身に付けられるよう、学習のめあてや課題をもち、振り返るという活動を継続的に行います。また、考えたことを自分の言葉で表現することを積み重ねます。 意図的にグラフなどの資料を提示して問題解決学習を多く取り入れ、自分で解き方を考える時間を十分にとっていきます。 調べたことなどをグラフや表、図鑑作りや新聞に表す学習などを多く取り入れ、情報や自分の考えを表現する力を高められるように指導していきます。 【ノート指導】 問題解決の筋道が分かるノート作りが行えるように指導していきます。ノートを定期的に評価して、モデルとなるノートを提示していきます。 自ら課題を見出し、見通しをもって解決することのできる児童を目指します。そのために、授業の始めにめあてを明確にし、自分の考えを言葉や文章で表現できるようにします。また、授業の最後には、まとめ、感想を書いて振り返ることで、自分の達成度を確認したり、次時の課題をもったりする時間を確保します。 学習の過程や、自分や友達の思考が分かりやすく整理されたノートを記録できる児童を目指します。そのために、教師も整理された板書を心掛けたり、見やすく書くポイントを伝えたりします。また、分かりやすく整理されたノートを掲示し参考にできるようにします。 自分の考えをもち、友達の意見を聞いて、考えを深めることができるようになります。そのために自分の考えをもたせてから話し合いを行うようにします。また、友達の意見を聞いて考えが変わったり、友達の意見に付け加えて話している児童を称賞し、児童がお互いに学び合う力が身に付くようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対して予想を立てる習慣は身に付いてきています。自分の考えをどのように表現したらいかに迷っている姿もあったので、こちらで表現方法などを提示しながら取り組めるようにします。 自力解決の時間を大切に授業となるようにしました。自分の考えをもった上で、グループ交流なども取り入れ、考えを広げたり、深めたりしました。 自力で課題解決に必要な情報を集め、記録することが出来る児童は、3割程度です。 モデルとなるノートを積極的に提示し、半数程度の児童は分かりやすいノート作りを意識しています。定規で線を引く、字を丁寧に書くなど、後で見返したときに学習したことが復習できるようなノート指導をしていきます。 自ら課題を見出し学習に取り組むことが出来る児童は、半数程度です。めあてをより明確にし、課題意識をもって取り組めるようにしていきます。 自分の考えを記録できる児童が一学期に比べて増えました。友達の考えも書き、考えの比較などができるように指導していきます。 国語や理科の話し合い活動では、友達の意見を聞いて、考えを深めることができるようになってきました。日常生活でも、意見交換ができるような人間関係が作れるよう、指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対して予想を立てる習慣に加えて、最後の振り返りの際に学習のめあてに立ち返って振り返り出来る児童が半数ほどになりました。 自力解決の時間にじっくり自分の考えをノートに書く姿が見られるようになりました。自分の考えを表現出来ない児童には、個別の指導をしました。 ウインタースクールの学習などを通して、自力で課題課題解決に必要な情報を集め、記録することができる児童は半数ほどに増えました。情報の選別について、引き続き指導をします。 分かり易いノートを書くようになる児童が4月の頃よりも増えました。授業の際に、自分のノートを見返している姿も見られます。 課題意識をもって取り組むことが出来る児童は約6割ほどです。 自分の考えの変容や友達の考えを記録し比較することが出来る児童は二学期に比べ増えました。より分かり易いノートを書けるよう指導を続けます。 授業の中では、相手の意見を受け入れることが出来るようになってきています。休み時間など、友達と関わる時間が長い時も、相手の立場になって話を聞く、ということを指導します。
学習規律	<ul style="list-style-type: none"> 授業が始まってから、短時間で集中できるようにするために、毎時間、学習のめあてや課題をノートに書かせ、声に出して読むことを指導し、習慣化できるようにしていきます。 話すこと・聞くことの大切さを意識化させるために、聞いている人の方を向いて話すこと、相手の話を受けて話すこと、話している人の方を向いて聞いたりメモを取りながら聞いたりすることを指導していきます。 既習事項の定着を図るために、宿題提出率100%を目指し、自主学習に進んで取り組めるようになります。そのために、家庭学習週間や自主学習を行う機会を設定して、段階的に自主学習の取り組み方やその内容を指導していきます。 家庭学習時間を毎日75分間(15分×5年生)取り組むことを目指します。そのために宿題の提出を確認します。また、自主学習を励行し、自らの課題を考えて取り組むよう声を掛けます。模範になる児童の取り組みを紹介したり、ノートを掲示したりして参考にできるようにします。 次時の授業の準備の習慣化を目指します。できている児童をほめたり、グループで声を掛け合ったりさせることで100%の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間のめあてを書き、課題を理解することは習慣となっています。最後まで課題を意識し、学習に取り組むことができるようになっていきます。 話すことには積極的な姿勢が見られますが、聞くことに課題がある児童が2割程度います。国語の「聞く・話す」の授業だけでなく、日常的に人の話を最後まで聞いたり、要点を落とさずに聞いたりできるよう、あらゆる場面で声を掛け、指導を続けます。 宿題達成率は、8割です。引き続きご家庭のご協力をお願いします。 75分の家庭学習を達成出来る児童が7割程度です。自らの課題を見つけることに苦戦している児童もいたため、模範となるようなノートを示しながら、意欲的に取り組めるようにしました。 1日の予定を視覚化して示すことで、見通しをもって生活出来る児童が増えてきました。児童達同士、声を掛け合うことことで、集団としての行動が素早くなるよう指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の最初の課題意識を授業の終わりまでもち、振り返りやまとめが自主的に出来るよう、引き続き指導します。 話す相手によって話し方や話す内容を変えることが出来る児童が二学期よりも増えました。聞くことに課題がある児童は2割ほどいますが、最後まで話を聞く姿勢が以前より身に付いてきました。これからは、大事なことを落とさず聞くということを指導します。 宿題提出率は約8割ほどにとどまりました。しかし、忘れてその日の内に取り組み課題を解決できる児童は4月よりも増えました。 75分の家庭学習を達成出来る児童は約8割ほどになりました。しかし、提出された課題の量を見ると、分かんずに困っていたり集中して学習していなかったりすることも少なくないようです。分からない時は、質問に来るよう指導を続けるとともに、家庭学習期間以外でも、継続して自主学習に取り組むよう指導をしています。漢字や計算、音読などの基本的な内容を確実に身に付けることが大切です。 次の学習の用意をしてから休み時間をとるなど、素早く学習に取り組むためのポイントを指導していますが、次時の授業の準備が習慣として身に付いた児童は3割ほどにとどまっています。学習準備や学習用具の忘れをなくし、気持ちよく学習が始められるよう、指導を続けます。